

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	伝統武術・スポーツのグローバル化と社会的影響に関する領域横断的研究				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	奈倉 京子
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	坂巻 静佳
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	孫 暁剛
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	富澤 かな
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	奈倉 京子

講演題目	伝統武術・スポーツのグローバル化と社会的影響に関する領域横断的研究
------	-----------------------------------

**研究の目的、成果及び今後の展望**

本研究の目的は、スポーツが国際社会、国家または地域社会のなかで果たしてきた／果たしている機能と意味、および、スポーツに具現化されるところの社会の実態を明らかにすることにある。さらに、こうした問題意識とそれについての考察を、国際関係学部の学生に向けて教育活動のなかで発信し、疑問なく受容してきたであろうスポーツと（自らの所属する又はしない）社会に意識を向ける契機を提供するとともに、異文化への理解を高めることも目指す。

スポーツについては、医学・物理学等の見地から、運動メカニズムの解明、競技力の向上等を目的とする研究は蓄積されてきたものの、社会とスポーツのかかわりについては、管見する限り十分に検討されてきたとは言い難い。社会とスポーツの関係性に関する人文科学・社会科学からの検討は、スポーツ研究への新たな知見を切り開くことになると考えられる。

本研究は、2018年度以来開催してきた講演会（空手のグローバル化、ブラジルへ渡った後のブラジリアン柔道、ボクシング史を通してみる日比関係、外国籍の空手家による日本文化の受容、インドネシア伝統武術、Mixed Martial Artsの現代的価値、コモンウェルスゲームズからみるジェンダーと宗教）と、それらに関する事前学習、講師との学術的交流に基づくものである。これらの活動を通じて、武道・スポーツは社会において一定の役割を果たし、また社会もまた武道・スポーツの形成と発展に大きな影響を与えてきたことが明らかになってきた。

2023年度の成果は、①「スポーツを通じた社会的包摂——ムスリム女性を対象にして」（講師：安達智史、2023年6月13日開催）、②「相撲とナショナリズム—「国技」をめぐる大相撲の近現代史—」（講師：胎中千鶴、2023年11月9日開催）を対面形式とオンラインのハイブリットで開催したことである。両講演会ともに大変有意義であった。

スポーツについて人文科学・社会科学からの検討は蓄積があるとは言い難く、生態人類学、人文地理学、宗教学、死生学、文化人類学、国際法学といった多様なアプローチからの検討は類をみない。ナショナリズム、移民、身体論、ジェンダーなど、複数のテーマが交差する学際的かつ国際的な研究となる可能性を秘めており、以降の科研費の応募等へもつながりうる、将来性あるテーマである。